2026 年 11 月 2 日

＊本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。
＊本資料に記載の装備、諸元データは、いずれもドイツで販売予定のもので、日本仕様とは異なります。

Audi Q9、市販モデルとして世界初となる曲面デザインのデジタル OLED パネルを採用

（ドイツ本国発表資料）2026 年 10 月 23 日、インゴルシュタット：新型 Audi Q9 は、市販モデルとして世界初のテクノロジーを搭載しています。自動車業界で初めて、3 次元的に湾曲したデジタル OLED パネルを採用しています。第 3 世代のデジタル OLED テクノロジーは、安全性とコミュニケーションに新たな可能性を提供します。アウディの OLED のサクセスストーリーは 10 年前から始まっており、Audi Q9 はライティングテクノロジーの開発におけるマイルストーンとなります。OLED テクノロジーを一貫して進化させてきた唯一の自動車メーカーとして、アウディは OLED を革新的な光源から、インテリジェントなデジタルコミュニケーション手段へと進化させてきました。

キーファクト
- Audi Q9 に世界初：市販モデルとして初めて、3 次元曲面デザインのデジタル OLED パネルを採用
- 曲面デザインのデジタル OLED パネルがボディの輪郭に正確に沿い、側方からの視認性を向上
- デジタル OLED パネルのガラス基板の厚さは、わずか 0.1mm
- 極薄ガラス技術により、最大 200mm の曲げ半径を実現
- 6 枚の大型デジタル OLED パネルに計 512 セグメントを配置した、第 3 世代のデジタル OLED テクノロジー
- アウディ史上最大の OLED パネル：99 セグメントの曲面アウターパネル、84 セグメントのセンターパネル、73 セグメントのインナーパネル
- コミュニケーションライトが、道路安全性の向上に貢献
- 3D 効果を備えた、スタティック、アクティブ、セミアクティブの新しいデジタルライトシグネチャー
- 市販モデルにおける 10 年の OLED の知見
- 車両と周囲との明確なコミュニケーションを実現するアドバンストターンシグナル
- インテリジェントなライティングアシストを実現する最新のマイクロ LED テクノロジーを採用したデジタルマトリクス LED ヘッドライト
- ワールドプレミア：曲面デザインのデジタル OLED テクノロジーが新たな基準を確立

Audi Q9、アウディとして初めて曲面デザインのデジタル OLED パネルを採用
これは、革新的な極薄ガラス技術によって実現しました。OLED パネルのガラス基板の厚さはわずか 0.1mm で、人間の髪の毛ほどの薄さです。これにより、パネルを最大 200mm の曲げ半径で湾曲させることが可能となり、ボディの輪郭に沿わせることができます。

3 次元的なデザインは、デザインに新たな選択肢をもたらすだけでなく、機能面でもメリットを提供します。OLED をリヤライトの外側に配置することで、より広い側方からでも光が視認できます。側方からの視認性の向上は、道路安全性に直接貢献します。各リヤライトシグネチャーに警告シンボルを組み込んだコミュニケーションライトにより、事故や故障の発生場所について、他の道路利用者に追加的な視覚的警告を提供することができます。

曲面デジタル OLED パネルは、耐久性、均一性、コントラストに関して定められた自動車の要件を満たすよう設計、検証されています。このテクノロジーは、革新的なデザインと、アウディがこの 10 年にわたり継続的に磨き続けてきた OLED テクノロジー独自の特長を兼ね備えています。

市販モデルにおける 10 年の OLED の知見：進化を続けるアウディのテクノロジー
サクセスストーリーの始まりは、2016 年の Audi TT RS でした。アウディは自動車メーカーとして世界で初めて、有機発光ダイオード（OLED）を市販モデルのリヤライト技術として導入し、自動車のライティングデザインにおける新たな時代の幕を開けました。面発光光源によって、これまでにない均一性、高いコントラスト、そしてダイナミックなライティングシナリオを可能にしました。

それからわずか 4 年後、次の進化のステージに入りました。2020 年、Audi Q5 に導入したデジタル化した OLED テクノロジーにより、個々のセグメントを制御してリヤライトのシグネチャーをパーソナライズすることが初めて可能になりました。お客様は、さまざまなデジタルライトシグネチャーから選択し、車両後部のライティングデザインを個別に設定することができるようになりました。

アウディはこの技術をさらに進化させ、デジタル OLED テクノロジーは第 2 世代となり、2024 年に Audi Q6 e-tron に採用しました。個別に制御可能なセグメント数は 10 倍に増加し、新たな安全機能も追加されました。コミュニケーションライトも、道路安全性をさらに向上させました。リヤライトに統合された警告シンボルは、故障、緊急ブレーキ、事故発生場所などの危険な状況について、他の道路利用者にいち早く警告することができました。この世代には、Audi Q5 で初めて採用された近接表示機能（proximity-indication function）も含まれます。これは、他の道路利用者が停車中の車両に近づいた際に、すべてのデジタル OLED セグメントを点灯させることで注意を喚起する機能です。

OLED のデビューから 10 年を迎えた現在、このテクノロジーは、Audi Q9 と第 3 世代のデジタル OLED テクノロジーにより、これまでで最も進化した段階に達しました。エモーショナルなデザインとインテリジェントな安全機能を融合し、昼夜を問わず独自のブランド体験を生み出します。Audi Q9 は、自動車ライティングの未来に向けた新たなマイルストーンを刻んでいます。

第 3 世代のデジタル OLED テクノロジー：表現力、安全性、パーソナライゼーションをさらに強化
新型 Audi Q9 の第 3 世代デジタル OLED リヤライトは、6 枚のパネルに分散配置された合計 512 のデジタルセグメントを特徴としています。99 セグメントを備えた世界初の曲面デジタル OLED パネルは、アウディがこれまで市販モデルに採用した中で最大の OLED パネルでもあります。

セグメント数の多さは、新たなパーソナライズの選択肢を広げます。フロントとリヤで、最大 8 種類のデジタルライトシグネチャーを選択できます。デジタルライトシグネチャーは、スタティックまたはフルアクティブなシグネチャーだけでなく、初めてセミアクティブなシグネチャーとしても表示することが可能です。これにより、特に夜間において、魅力的な 3 次元効果を備えた、極めて表現力豊かなライティングデザインが可能になります。

この点で、デジタル OLED テクノロジーは重要なメリットを提供します。OLED は面発光光源であるため、非常に均一なライティングデザインと、印象的な立体感のある演出を実現できます。第 3 世代へと進化したことで、リヤライトは、これまで以上にアウディのモデルであることを特徴づける要素となっています。

デジタルライティングテクノロジー：車両と周囲をつなぐコミュニケーション手段としてのライト
第 3 世代のデジタル OLED テクノロジーにより、車両から周囲へ発信するコミュニケーションの内容が広がっています。リヤライトは、ますますインテリジェントなエクステリアディスプレイへと進化しています。

Audi Q9 は、デジタル OLED リヤライトとデジタルマトリクス LED ヘッドライトを組み合わせることで、安全性の向上に積極的に貢献し、車両から周囲へのより効果的なコミュニケーションを可能にする、インテリジェントなライティングシステムを特徴としています。Audi Q7 で初めて採用されたアドバンストターンシグナルにより、Audi Q9 は周囲の交通に対して積極的に意思を示すことができます。夜間に右左折や車線変更を行う際、シンボル化されたダイナミックなターンシグナルを路面に投影します。これにより、歩行者、サイクリスト、その他の道路利用者は、車両の進行方向の変更を、さらに早い段階で認識することができます。

新型 Audi Q9 のデジタルマトリクス LED ヘッドライトには、マイクロ LED モジュールを採用しています。このマイクロ LED モジュールは、幅約 13mm のモジュール内に 25,600 個のマイクロ LED を搭載しています。各マイクロ LED のサイズは約 40 マイクロメートルで、夜間に高解像度の光の映像を直接投影することができます。これにより、極めて高い精度とコントラストで路面を照らし、配光を調整することができ、特に悪天候の時に効果を発揮します。ライトガイダンス機能には、オリエンテーションライト付のレーンライト、郊外の道路におけるオリエンテーションライト、高速道路でのターンシグナル

投影付レーンライトが含まれます。レーンライトはロービームに加えて、車両の走行車線を照らし、投影されるオリエンテーションライトが、車線内での車両の位置を先行して示します。幅の狭い工事区間では、システムが自動的に配光を調整し、車線中央の走行を容易にするため、レーンライトをオフにしてオリエンテーションライトへ切り替えることができます。これらのアシスト機能は、システムの作動範囲内で利用可能であり、ドライバーを支援するものです。

アウディにおける OLED テクノロジーの歴史

2016	OLEDテクノロジーの初採用	Audi TT RS
2020	第1世代のデジタルOLEDテクノロジー	Audi Q5 PI*、Audi A8 PI*
2024	第2世代のデジタルOLEDテクノロジー	Audi Q6 e-tron、Audi A5、 Audi A6、Audi A6 e-tron、 Audi Q5の各モデルファミリー
2026	第3世代のデジタルOLEDテクノロジー	Audi Q9、Audi Q7の各モデルファミリー
2026	曲面デザインのデジタルOLEDテクノロジー	Audi Q9

* PI（Product Improvement）：フェイスリフトモデルの意

「アウディにおいて、光は何よりもまず安全性、すなわち『見ること』と『見られること』を意味します。デジタル化は、路上の安全性をさらに向上させ得るまったく新しい可能性を切り拓きます。Audi Q9 の曲面デジタル OLED テクノロジーは、この技術の可能性を印象的に示しています。それは、デザインの自由度とパーソナライゼーション、そして車両から周囲へのコミュニケーションを、新たなレベルで融合しています。私たちのビジョンは、光をインテリジェントなコミュニケーション手法へと徐々に進化させ、車両と周囲との相互作用をさらに安全で直感的なものにすることです」。
― AUDI AG ライティング開発責任者 ステファン ベルリッツ（Stefan Berlitz）

よくある質問（FAQ）

アウディの OLED（有機発光ダイオード）テクノロジーは、どのような仕組みですか？
有機 LED は、エレクトロルミネセンスの原理によって動作する半導体光源です。従来の LED とは異なり、OLED は無機材料による規則的な結晶格子を使用せず、有機分子の層を積み重ねた構造になっています。電圧を印加すると、電子と正孔が再結合し、光を放出します。

アウディは OLED テクノロジーをどのように活用していますか？
アウディの OLED の各層は、深い赤色の光を発するよう設計されており、自動車用途における光色、輝度、耐久性について定められた要件を満たしています。アウディは、セグメント化された OLED テクノロジーを世界で初めて提供した自動車メーカーであり、10 年にわたってこのテクノロジーを開発してきました。リヤライトの外観のカスタマイズとコミュニケーションが可能になり、それによって道路安全性の向上に貢献しています。

デジタル OLED テクノロジーには、どのようなメリットがありますか？
デジタル OLED 光源と「従来型」OLED の違いは、個別に制御可能なセグメントの数の多さと、その配置方法にあります。照明機能ごとに個別のケーブルで電力を供給する第 1 世代の OLED リヤライトとは異なり、デジタル OLED リヤライトはバスシステムを介して車両の電気システム制御ユニットに接続されています。これにより、はるかに多くの機能が可能になります。コントラストと均一性の高さ、セグメント間の隙間の小ささ、精度の高さに加え、厚さわずか 1mm のライトエレメントに統合された面発光光源のデザインを自由に変えられる点がデジタル OLED テクノロジーのメリットです。

OLED 光源と OLED ディスプレイは、何が違いますか？
スマートフォンなどに使用される OLED ディスプレイは、電子制御によって任意の色を表示できます。しかし、リヤライトやブレーキライトに法規上求められる明るさを確保することはできません。アウディがリヤライト向けに自動車用として開発した OLED セグメントは、個別に制御でき、無段階で調光できます。セグメント化された OLED と比較すると、ディスプレイのピクセル数が増え、すべてのピクセルが同一の形状とサイズになっています。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン 広報部

アウディ ジャパン プレスサイト
http://www.audi-press.jp/

報道関係者お問い合わせ：
https://audi-press.jp/contact/

お客様問い合わせ：
アウディ コミュニケーション センター
0120-598106

アウディについて

アウディは、プレミアムモビリティに先進のテクノロジーと革新的なデザインを融合させています。Vorsprung durch Technik（技術による先進）は、50 年以上にわたり、アウディの技術に対する探求心を象徴してきました。

アウディは、さまざまな顧客ニーズや地域ごとの要件に応える、幅広いプレミアムモデルを展開しています。アウディ グループは、世界 110 以上の市場で事業を展開し、12 カ国 21 カ所の生産拠点で生産を行い、世界で 8 万 8,000 人以上の従業員が働いています。アウディ ブランドの歴史は 1909 年にまで遡ります。2026 年からは、独自のファクトリーチームとして Formula 1 にも参戦しています。

アウディ ブランドに加え、アウディ グループには、スポーツカーメーカーのランボルギーニ、ラグジュアリーブランドのベントレー、二輪車メーカーのドゥカティが含まれます。

アウディ グループの詳細については、こちらをご覧ください。